

中学校

英語で授業 ここがポイント

教室における適切な L2（英語）使用をめざして	2
効果的な teacher talk のポイント	4
NEW CROWN での実践例① 文法の指導	6
NEW CROWN での実践例② GET 本文の指導	8
NEW CROWN での実践例③ USE Read の指導	10
授業レポート	12

三省堂

教室における適切な L2（英語）使用をめざして： Code-switching の指針を考える

竹内 理（関西大学）● Takeuchi Osamu

1 はじめに

2013 年 4 月、学習指導要領に基づき、高等学校において「授業は英語で行うことを基本とする」という考え方が実施に移されました。同年 5 月には、教育再生実行会議で、中学校に対してもこの考え方を導入する提言がなされ、6 月には「第二期教育振興基本計画」の一部として閣議決定されました。また同年 12 月に出された「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」では、高等学校に関して「基本とする」の部分が削除され、「授業を英語で行う」となり、中学校では「授業は英語で行うことを基本」とすると明記されました。このような教育現場における L2（第二言語）使用強化の流れは世界的なものがあり、英国や韓国においても L2-only の授業スタイルが強く推奨されるようになっていきます（Lee & Macaro, 2013）。

一方、外国語教育学の研究をみると、L2-only の授業スタイルは、Direct Method の導入時期から主張されるようになり（Savignon, 1983; Widdowson, 1978）、ここ数十年では Communicative Approach の提唱にともない拡がりをみせてきました。しかしながら、昨今では L2-only の動きに対して疑問を呈する研究も多くなり（Levine, 2014; Macaro, 2001; Storch & Wigglesworth, 2003）、またその効果が必ずしも実証できないこと（Lee & Macaro, 2013; Lei & Hu, 2014; Macaro & Lee, 2013）ともあいまって、L1（第一言語）の使用をまったく止めてしまうのではなく、目的に応じて L1 と L2 を切り替えるという code-switching の考え方が主流となりつつあります（Urr, 2012）。

2 Code-switching の指針

それでは、政策の方向性と研究の知見が上手く整合性を持たないこの状況下において、我々は何を指針にして英語教育に取り組んでいけば良いのでしょうか。

ここでは、外国語教育学におけるこれまでの研究成果の蓄積を基にしながらも、「生徒の英語運用能力を伸ばす」という昨今の“実践指向型”英語教育の目的も観点として組み込み、次のような code-switching の指針を提案してみたいと思います。

- (1) 教室内では L2 使用を基本とする、ただし
- (2) 次のような場合には L1 も活用する
 - (a) 文法・語彙の導入と意識化のため
 - (b) タスク等の手順説明のため
 - (c) クラスの規律確立や関係性向上のため
 - (d) 動機づけや不安軽減のため
 - (e) 異文化理解の促進や言語意識向上のきっかけを提供するため

上記の指針 (2) は、言い換えれば、「L2 使用や L2 学習を促進する手助け、あるいは足場（scaffolding）として L1 を活用する」という意味合いになります。

3 L2 使用を基本とする

「授業の目的は L2 運用能力の向上」と考える限り、学習者に L2 インプットをできるだけ多く提供することは、英語授業の必須要件となるでしょう。またコミュニケーションのツールとして L2 をとらえた場合、その使用場面と必然性を増やすことも重要となります。したがって運用能力向上という目的に照らして考える限り、「L2 使用を基本とする」という指針は外すことのできないものとなるでしょう。

次に問題となるのは、どの程度まで L2 使用の比率を上げるかということです。海外の研究では、およそ 80% の L2 使用という数字があがっていますが（Levine, 2014）、これは学習者の L2 レベルや L1 構成（日本では日本語のみが多い）により異なるものであり、参考目標値程度として扱うべきものでしょう。大切なのは、「授業の目的を達成するために L2 を最

大限に使用する」という視点です。またこの場合の L2 使用は、教員の L2 使用（説明）、教員と生徒間の L2 使用（対話）、そして生徒間の L2 使用（対話）の合計から考えていく必要があるでしょう。

4 L2 使用促進の足場としての L1 使用

L1 使用を容認したとしても、これが際限なく拡がるという事態は、英語授業の目的から考えると望ましいものとは言えません。そこで Levine (2014) らは、その使用場面を限定する方向性を打ち出しています。この際に大切になるのが、上述 (2) の「L1 使用は、L2 使用や L2 学習促進の足場として機能すべし」という指針です。たとえば、L2 の語順を説明する際に、L1 を対照的に活用することで理解が進んだり、意識化が促進されたりするのであれば、この L1 利用は理にかなったものと考えます。また教員がフィードバックを L1 で提供することで L2 の誤りが効果的に防げるのなら、この L1 利用も問題がないということになります。同様に、語彙を導入する際に L1（たとえば英和辞典）を利用することで学習の効率化がはかれるのであれば、これも容認するという考え方になります。

タスク等の手順説明も同様で、そのタスクを通して L2 運用能力向上という目的を達成しようとしている限り、手順の説明は効率を優先して L1 でも構わないということになります。ただしこの場合は、ALT と協力して実演をするなど、L1 使用を避ける方策も存在しており、そちらの方を優先すべきでしょう。

上記以外にも、教室内での規律維持や、ラポールの形成、動機づけや不安解消を行う目的で L1 を利用することは、中学生のような初級段階にある学習者の場合、それが常態化しない限りにおいて容認されるべきであり、また、このような場合に L1 を使用したからといって「オールイングリッシュ（All in English）の授業ではない」と非難するのは、的はずれと言わざるを得ません。

L1 使用を容認できるもう 1 つの場面としては、異文化やコトバに対する意識を深める際があげられます。このような場合、初学者を対象としては L2 使用が難しく、使用するとかえって理解を阻害するような事態が生じることもあります。そうした時には、L2 使用・学習促進の足場として、L1 を活用することが十分に考えられます。

5 おわりに

本稿では、「教室内においては L2 使用を基本としながらも、L2 使用や L2 学習促進の足場となり得る場合に限り、L1 も活用する」という code-switching の立場を示してきました。大切なのは授業の目的を達成することであり、L2-only に固執したり、逆に忌避したりすることではありません。ICT 機器などを駆使して、できる限り生徒たちの理解を補助・促進しながら L2 を積極的に使用し、同時にその限界を L1 で補うというこのスタンスこそ、激変期の英語教育に求められているものと言えるのではないのでしょうか。

参考文献

- Lee, J. H., & Macaro, E. (2013). Investigating age in the use of L1 or English-only instruction: Vocabulary acquisition by Korean EFL learners. *The Modern Language Journal*, 97, 887-901.
- Lei, J., & Hu, G. (2014). Is English-medium instruction effective in improving Chinese undergraduate students' English competence? *International Review of Applied Linguistics*, 52, 99-128.
- Levine, G. S. (2014). Principles for code choice in the foreign language classroom: A focus on grammaring. *Language Teaching*, 47, 332-348.
- Macaro, E. (2001). Analyzing student teacher's code-switching in the foreign language classrooms: Theories and decision-making. *The Modern Language Journal*, 85, 531-548.
- Macaro, E., & Lee, J. H. (2013). Teacher language background, code switching, and English-only instruction: Does age make a difference to learners' attitudes? *TESOL Quarterly*, 47, 717-742.
- Savignon, S. (1983). *Communicative competence: Theory and classroom practice*. Reading, MA: Addison-Wesley.
- Storch, N., & Wigglesworth, G. (2003). Is there a role for the use of the L1 in an L2 setting? *TESOL Quarterly*, 37, 760-770.
- Urr, P. (2012). *A course in English language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Widdowson, H. G. (1978). *Teaching language as communication*. Oxford: Oxford University Press.

効果的な teacher talk のポイント



亘理 陽一（静岡大学）● Watari Yoichi

1 はじめに

「英語での授業」は単純に英語を使う量を増やせばよいという問題ではなく、どのように英語で展開し、どのように生徒の英語の受容・産出を引き出すかという問題です（亘理，2011）。ここでは、前の指針を受けて、授業における効果的な teacher talk の内容・方法について具体的に考えます。教室ごとに環境は異なるため、いつ、どのように L2 と L1 を使い分ければ良いのかということに絶対的な解はありません。これまでに見聞きした授業の現状、あるいは学生・院生の指導経験から本稿の見解を一言でまとめれば、「粘り強く L2 で、複雑な指示はためらわず L1 で」と言うことができます。

2 理解可能なインプットを与えるために (MERRIER Approach)

第二言語習得研究の知見から、「大量のインプット」を与える重要性が繰り返し説かれますが、ここでの「インプット」とは「その学習者にとって理解可能なインプット」を意味するものだということに注意が必要です（白井，2012）。その理解可能なインプットを与えるための指針として、酒井・塩川・浦野（編）（2003）や酒井（2014）は MERRIER Approach を提唱しています。すなわち、以下の 7 つの視点に留意して英語を用いることです。

Model/Mime：身振り・表情・実物・視聴覚教材などの言語外情報を活用することや見本を示すこと。
Example：抽象的な内容を具体例に示すこと。
Redundancy：同一の内容を別の発想で言い換えること。
Repetition：大切なことを繰り返すこと。
Interaction：学習者と相互交渉をすること。

Expansion：学習者の発話を補強して繰り返すこと。
Reward：学習者の反応に対して肯定的なコメントをすること。

この 7 つの視点は、新出教材のオーラル・イントロダクションのような授業の一部についても当てはまりますし、一時間の授業全体、あるいは単元全体でも気を配るべき視点だと考えられます。

3 粘り強く L2 で

まずは自身の教室での英語使用をふり返ってみて、比較的良好にできていると思う点と十分とは言えない点を整理してみましょう。

①言語外情報に頼りすぎしていないか

「教室内では L2 使用を基本とする」という指針の中身をもう一度考えてみましょう。新出教材の導入や活動の指示・例示の際に、身振り・実物・視聴覚教材を活用することには大きな意義があります。しかし、そこでの説明に十分な L2 が使われているでしょうか。教師の動きや写真・イラストで理解を得ることが比較的容易な場合でも、言語外の情報があくまで生徒の L2 の理解を助けるためにあるものだということを忘れないようにしましょう。

②「指示」以外でも英語が使えているか

All in English だという授業を観に行くと、“Make pairs.” “Stand up.” といった授業中の基本的な指示が英語で行われているだけ、という場合があります。確かに授業は英語で展開されているのですが、そもそも指示の多くは簡潔で、いったん理解し慣れてしまうと、決まった行動を引き出す「合図」になってしまいます。教室英語の共有はもちろん重要ですが、それだけでは生徒の英語の世界が広がらず、「わかるのは先生の指示だけ」という状態を生み出しかねません。意味のある L2 使用によって、「もっと先生の英語を理解したい」という感覚を生徒にもたらしたいものです。

L2 による指示をメリハリをつけて繰り返すことも生徒の理解のために重要ですが、それは大切なことだから繰り返す意味があるのです。

③発する言葉にバリエーションはあるか

例えば模擬授業を通じてよく学生に投げかけるのは、「Reward が単調になっていないか」です。オープン・エンドの質問はもちろん、正解がある問いでも、かける言葉は“Good job!” や “Nice try.” ばかりではなく生徒の状態によって様々にあり得るはずです。多様な観点で一人ひとりの伸びを認めるようなものであってこそ、Reward が生徒に残る英語になります。

④説明を広げて手がかりを増やしているか

授業での「意味のある L2 使用」を増やす上で、現時点で最も重要だと考えているのが Example と Redundancy です。新出語句の説明や本文解説、活動の指示においてこの点を粘りなかつたことがうまくいかない原因だと感じる場合が少なくありません。

例を挙げたり言い換えたりするヒントに、青木・ほしの（2014）があります。タイトルはいかにも扇動的で、先生が手に取ることは少ないかもしれませんが侮れません。提案されている「8 割捨てる」「大人語を捨てる」「直訳を捨てる」「抽象語を捨てる」という「4 つの柱」は、teacher talk の Redundancy を高める上でも多くの示唆を含んでいると思います。

例えば“astronaut”という単語が出てきたとき、英語でどのような説明ができるでしょうか。宇宙飛行士の名前を挙げて（Example）ピンと来れば、理解してもらうのは簡単です。しかし生徒が誰の名前も知らず、イラストや写真（Model）もなかったとしたらどうでしょうか。英英辞典では“someone who travels and works in a spacecraft”などと説明されます。模擬授業で、事前にしっかり準備をする学生によく見られるのですが、実物や正確な定義に囚われるあまり、それが通じないとすぐに諦めて日本語を使ってしまいます。しかし、そこに“Do you know “Space Brothers”? Astronauts are people like Namba Mutta. They go to space on a space shuttle.”といった生徒にとって身近な説明を足せば、知っている情報や単語を手がかりに生徒が意味を推測する機会が増えます。

文法においても、比較級の導入前に、“Mt Fuji is No. 1 in height in Japan, but it’s not No. 1 in the world. For example, the top of Mt Kilimanjaro is 5,895 meters high, and it’s No. 1 in Afri-

ca.”と説明すれば、“Mt Kilimanjaro is higher than Mt Fuji.”の文へつなぐことができます。

既習の語句・構文を使うだけでなく、身近なものに喩えたり、具体的なことに置き換えたり、視点を換えたり、できることはたくさんあります。同時にそれが、生徒が英語を使う際のモデルにもなります。

4 複雑な指示はためらわず L1 で

確かに All in English ではあるものの、活動のデザインや手順が複雑で、生徒が十分に理解できず、スムーズに進まない授業に出くわすことがあります。

まず考えたいのは、L2 使用にこだわるほどそこに教育内容として重要なメッセージや経験が含まれているかということです。英語の指示に対応できるようになることは重要ですが、活動の指示は授業特有の、極めて特殊な経験です。生徒にわかりやすくしようとするほど、多くの説明ややり取りが必要となるので、授業の幹と優先順位を考え、使うべきところはためらわずに L1 を使いましょう。

5 おわりに

本稿では、MERRIER Approach を手がかりに、効果的な teacher talk の内容・方法の視点を示しました。使用言語の問題は本来、一時間の授業だけでなく、教科全体の目標や評価にも関わってくる問題です。例えば Expansion として生徒の発話の誤りの訂正を重視する言い方や頻度が、正確さ・流暢さの評価に関する教師からの間接的メッセージにもなります。L2/L1 のいずれも闇雲に使うのではなく、生徒に与える影響を十分に考えて、可能な限り効果的な活用を模索することが言語教師には求められています。

参考文献

- 青木ゆか・ほしのゆみ（2014）.『するいえいご』日本経済新聞社。
酒井英樹（2014）.『小学校外国語活動 基本の「き」』大修館書店。
酒井英樹・塩川春彦・浦野研（編）（2003）.『英語が使える日本人の育成：MERRIER Approach のすすめ』三省堂。
白井恭弘（2012）.『英語教師のための第二言語習得論入門』大修館書店。
亘理陽一（2011）.『外国語としての英語の教育における使用言語のバリエーションに関する批判的考察』『教育学の研究と実践』6, 33-42。

文法の指導 (Book 1 Lesson 4 GET)

小泉 一輝 (長野県長野市立若穂中学校) ● Koizumi Kazuki

1 活動を設定するときに基本となる考え

文法は、中学生にとっては「身につけなければいけない」「難しくて説明を聞いてもわからない」という印象が強いようです。ですから、構造を説明したりするよりも、英文に触れたり使ったりしているうちに、気が付いたら覚えていたというくらい、楽しく、学びやすくしたいものです。そういった状況を創り出すために、以下のことを常に心がけています。

- (1) 生徒の学び方の特性を考え、「聞く」「見る」「描く」「選ぶ」「言う」「慣れる」「使う」「書く」といった様々なプロセスを含め、徐々にインプットからアウトプットにつなげていくようにすること
- (2) 教科書の本文やターゲットの文を生徒たちが自分自身の力で読めるような段階を設定すること
- (3) ALT にネイティブの発音で生徒にインプットをしてもらい、言語の特徴や文法のポイントに生徒が気付くよう、JTE が英語で手助けをすること

教師は「文法を英語で説明するのは無理！」と考えがちですが、活動を工夫することで、生徒たちは自分たちで学習を進めるようになります。教師からの英語での活動の指示やモデル対話、言い換え、それらこそが生徒にとっては文法を学ぶことになり、教師にとっては「英語で授業」を行うことになるのだと思います。

2 指導の手順とポイント

ここでは、1 学年の Lesson 4 GET Part 1～2 で扱われている「名詞の複数形」と「数を尋ねる疑問文」の文法について気付かせる活動の工夫を紹介します。

1. 導入 (教師の英語を聞き、必要に応じて反応する)

…身近なものについての教師の質問に答えながら、新出文法の共通理解を図る。

ここでのポイントは、ターゲットの文を少しずつ変

化させて、生徒に提示することです。右の例では、How many dogs do you have? という疑問文を繰り返し使ったり、dogs を cats に変化させたりしています。また、質問が理解できない生徒には、One dog? Two dogs? のように具体的に言い換えて質問の意味を伝えます。

右の例の生徒 (S2) は複数形が使えなかったので、You have three cats. と繰り返して、正しい形を示すようにしました。

2. 活動 (生徒自身が与えられたタスクに取り組む)

…対話の音声を聞き (本校ではタブレットを活用)、絵を描いて意味を確認する。その後、スクリプトを見て、音と文字を結びつける。

ここでのポイントは、「聞く」「選ぶ」「描く」「見る」「読む」のように、様々なプロセスの中で多くのインプットを与えることです。活動前には新出文法について teacher talk で説明しながら、様々な複数形をさりげなく使うようにしました。

3～4 人のグループで協力して絵を描いていくこの活動では、次のようなやりとりが聞かれました。

S3 : 「ボウズ」って何のこと?

S4 : five って言っているからきっと複数形だよ。

数を知っている生徒は、まず音声面で複数形を意識します。音声で意識できると、文字で確認して内容を理解したいという readiness になります。

音と文字のつながりを確認する段階では、生徒が自分たちで進めていけるような学習手順を提示し、教師はアドバイザーに徹することで、生徒自身の気付きを大切にしたいと考えました。

3. まとめ (教科書の意味を考えながら音読をする)

…新出語句・表現の確認や新出文法を含む Q&A の後、教科書の音読をする。

ここでは、生徒とインタラクションをしながら、教科書の場面を想起することを促します。その後、本文についての質問を投げかけ、教科書への導入としています。

Teacher Talk の例

指導内容	発 話 例
1. 導入 身近なものについての教師の質問に答えながら、新出文法の共通理解を図る	<p>T : Do you have any animals? ALT : Yes, I have dogs and cats. T : I see. How many dogs do you have? ALT : I have two dogs. T : Well ... How many dogs do you have, S1? (S1 は答えられず困っている) No dogs? One dog? Two dogs? S1 : One. T : Oh, you have one dog! T : How about you, S2? How many dogs do you have? S2 : No dogs. T : OK, say, "I have no dogs." (S2 が教師のあとに続いて答えを言い直す) How many cats do you have, S2? S2 : I have three <u>cat</u>. T : I see, You have three cats.</p>
2. 活動 対話を聞いて、絵を描く	<p>T : When you use "How many ...s", you know the numbers. (板書をしながら) Now, I will pass a tablet to each group. Please listen to it and draw a picture of the room. There are three questions and answers. Please find them. (タブレット内に録音されている内容) A: How many pens do you have? B: I have four pens on the desk. A: All right. How many balls do you have? B: Balls? I have five balls in my bag. A: How many rackets do you have? B: Well ... I have two rackets under the table. S3 : 「ボウズ」って何のこと? S4 : five って言っているからきっと複数形だよ。</p>
スクリプトを見て音と文字を結びつける	<p>T : What is "bouzu"? Now let's look at this page. (タブレットで対話のスクリプトを示す) Please check! S3 : (How many balls do you have? の部分を見て) なんだ、ボールのことか! ボールが5つあるって言ってるから、s がついて「ボウズ」に聞こえたんだ。 T : That's right. Now, let's listen one more time and try to say the sentence.</p>
3. まとめ New Words や新しい表現の音読する	<p>T : (グループで活動が終了していることを確認し、単語カードを使いながら) Have you finished drawing? Have you practiced the sentences? Now let's check the new words. Not one word, but some words. Are you ready? Look at the screen and try to say them! (単語を指さしながら、生徒に読むよう促す) Ss : Bird ... T : Good. One bird. How about two ...? Ss : Birds. T : That's right! T : (近くや遠くを指さしながら) This bird ... that bird. These birds ... those birds. Look! (窓の外を指さして) How many birds do you see now? Ss : Three birds.</p>
新出文法を含んだ教師の英語の質問に答えたあと、教科書を音読する	<p>T : Now, I will give you this sheet. (教科書の本文だけが書かれたワークシートを配ってそれを見ながら) I will ask you some questions. Please answer them. First, how many students? Ss : Two. T : Good. Then, where are they? Ss : At the school? T : No. Ss : At the park. T : Yes! Awesome! What do they have in their hands? (No.1 虫眼鏡, No.2 双眼鏡, No.3 望遠鏡の絵を見せながら) Ss : No.2. T : Very good! Excellent. What animals can they see? Ss : Birds. T : Perfect! Now, how many animals do they see? Ss : Four ... T : No ... Please open your textbook and let's read them. (ここで初めて教科書を開く) Now, how many birds do they see? Ss : Oh! Nine! T : That's right! Let's read now!</p>

GET 本文の指導 (Book 3 Lesson 5 GET Part 1)

佐々木 顕彦 (関西学院中学部) ● Sasaki Akihiko

1 指導手順

本稿では、新規文法項目（ここでは主格の関係代名詞 that）を導入したあと、教科書本文を英語を使いながら教える方法を紹介します。

授業の流れとしては、最初にオーラル・イントロダクションとリスニングで本文の内容に触れさせます。次に新出語彙を導入し、続いて本文のリスニングと黙読を通して内容を理解させます。最後に音読と暗唱、さらに筆記活動を行って、語彙と文法事項の定着を図ります。

2 指導するときのポイント

1. オーラル・イントロダクション

本文内容のスキーマを活性化させると同時に、導入された関係代名詞 that への気づきを促すように問いかけます。余裕のある生徒には、実際に関係代名詞 that を使った英文を産出させる質問をします。

2. リスニング

本文の背景がわかったら、教科書を閉じたまま本文の英文 (CD) を聞かせます。ここでは、聞き取れた単語を発表させ、“Good!” などと褒めながら板書することで生徒の「聞こう」という動機を高めます。

3. 新出語彙導入

フラッシュカードを使って語句の導入をしますが、単語の意味確認はもちろん、細かい発音指導などには日本語を使います。なお、ここで視認語彙を増やす練習もしておくと、あとの黙読や音読に役立ちます。

4. 内容理解

a) 再び本文のリスニングをし、本文下の Q&A を行います。ここでも教科書は閉じたままですが、ピクチャーカードを指しながら聞かせることで内容理解を助けます。Q&A の質問文は、生徒の理解度に合わせて rephrase します。

b) 教科書を開いて 1 分ほど黙読させたあと、本文

についてより詳しい質問をし、内容理解を促します。その際、ピクチャーカードを使ったり、必要に応じて英語を補足するなどして、生徒の本文に対する理解を高める工夫が必要です。

5. 音読・暗唱

ここでは命令文による指示が多くなります。ジェスチャーをまじえたり、いつも同じ構文を使うなどして、生徒が指示をすぐに理解できるようにします。命令文ではありませんが、“I read the passage, and you repeat after me.” (下線部を強調) と、教師と生徒の役割を明確にする指示も有効です。

a) Listen & Repeat

英文が長い場合は、教師が読み上げるチャンクごとにスラッシュを入れてからリピートさせます。

b) Buzz Reading or Pair Reading

生徒が自分のペースで音読、またはペアで dialogue を音読します。

c) Read & Look up

生徒が英文を黙読し、教師の合図で顔を上げてその英文を誰かに語りかけるように言う活動です。

d) Recitation

習ったばかりの本文全体を暗唱するのは難しいので、cue として日本語訳を与えて英文を再生させます。ある程度できるようになったら、新出の文法・語彙が含まれる英文をノートに書かせます。

3 心掛けていること

「英語で授業」というと、教師が一方向的に英語を話す授業をイメージしますが、本当は、生徒が授業の中でたくさん英語を使うことのほうが大切です。したがって、教師の英語（指示や問いかけ）はできるだけ短く簡単にし、生徒が英語を考え、英語を話す機会を多く作るようにしています。

■ Teacher Talk の例

指導内容	発 話 例
1. オーラル・イントロダクション	<p>T: (ピクチャーカードのメイリンを指して) Who is she? S: Meiling. T: Yes. She is Meiling. (ケンを指して) He is Ken. Now, Meiling and his friends are going to Ken's house. (並んでいる2つの家を指して) Which is Ken's house? The house that has a black roof? Or the house that has a red roof? (that を強調する、以下同様) S: ... Red roof. T: ... No. ... S: ... Black roof. T: Yes! (黒い屋根の家を指して) Ken lives in the house that has a black roof.</p> <p>T: (話題を変えて) By the way, what kind of house do you like? I like a house that has a big garden. How about you, S1? ... You like a house that has ...?</p> <p>S1: ... a house that has ... many rooms.</p> <p>T: Oh, you like a house that has many rooms. Good! How about you, S2? ...</p>
2. リスニング	<p>T: Close your textbooks, and listen to the dialogue. (CD を流す)</p> <p>T: Did you hear any words? S: Energy! T: Oh, “energy.” Good! (単語を板書する)</p>
3. 新出語彙導入	<p>T: (意味と発音を確認したあとで視認語彙の練習をする) I'll show you each word very quickly. Please say the word. (カードをすばやくめくって発音させる)</p> <p>T: OK. Then, please say the Japanese (definition). (上と同様にカードをすばやくめくって単語の意味を言わせる)</p>
4. 内容理解 a) リスニング, Q&A	<p>T: Close your textbooks, and listen to the CD. (CD を流しながらピクチャーカードの該当部分を指す)</p> <p>T: (リスニング後) Let me ask you one question. (ケンの家を指す) This is Ken's house. (屋根の上のパネルを指して) There are some panels on the roof. Now, question. What do these panels collect? S: Energy. T: What kind of energy? S: Solar energy. T: Yes! They collect solar energy.</p>
b) 黙読, Q&A	<p>T: Open your textbooks to page 52. Please read the dialogue silently. I'll give you 1 minute.</p> <p>T: (1 分後) Let me ask you some questions. (ピクチャーカードの該当部分を指しながら質問する) Question 1. Are they near Ken's house? S: Yes, they are.</p> <p>T: Yes! They are almost there. “Almost there” means “almost at Ken's house.”</p>
5. 音読・暗唱 a) Listen & Repeat	T: I'm going to read the dialogue. Please repeat after me. (スラッシュを入れる場合は Please listen, and when I make a pause, draw a slash mark. と言いながらスラッシュを入れる動作をする)
b) Buzz Reading	T: Please read the passage aloud at your own pace. I'll give you 1 minute. (ペアで音読をさせる場合は Make pairs and practice the dialogue.)
c) Read & Look up	T: When I say “Read,” read the sentence silently. (教科書を読む動作をする) When I say “Look up,” look up and say the sentence. (顔を上げて言う動作をする)
d) Recitation	T: Close your textbooks. I'm going to say a sentence in Japanese. Say it in English. (ノートに書かせる場合は Write it in English on your notebook.)

USE Read の指導 (Book 3 Lesson 6 USE Read)

詫間 知徳（岡山県倉敷市立福田中学校） ● Takuma Tomonori

1 はじめに

3 年生 Lesson6 USE Read（3～4 ページ目）の指導について紹介します。ここでは、語句表現の導入・練習と本文の内容確認について取り上げます。

2 USE Read の語句表現の導入・練習のポイント

語句表現の導入・練習では、フラッシュカードを用いて、①自力で発音、②生徒の苦手な発音を意識してリピート、③再び自力で発音、④意味の確認、⑤日本語を見て英語で発音、を英語で指示します。

内容理解を促すために、④では言葉の派生語や文化的な知識も同時に伝えます。例えば Barack Obama であれば、1～2 度繰り返した後、President も繰り返させ、生徒の集中力を喚起します。さらに、“Now question! Who is the First Lady of the US? The First Lady is the President’s wife.” と言って Michelle Obama にも触れ、グローバルな知識の導入を図ります。また、equality であれば前時までに equal が出ているので、equal — equality のように派生語のセットとして発音練習します。African-American については「アフリカ系アメリカ人」と言っても生徒にはピンとこないのですが、英語で “As you know, I’m Japanese. If I went to the US and got the right to live there, I would be an American. Look at me. Now I am American, but my face is Japanese. So I am Japanese-American.” と説明するとわかりやすくなります。この例のように、時には未習の文法事項も必要になりますが、単語自体にも興味を持って学べるようにすることを意識しています。

⑤の後にワークシートを配布して英語の横に日本語を書きます。学習したことをすぐに復習する習慣をつけると、生徒は学習に集中するようになります。

3 本文の内容理解

USE Read ではまとまった英語を読み取る力を養うことを目標にしています。前時の復習や導入を行った後、本文の意味をすばやくとらえられるようになることを意識した読みの練習をします。最終的には、生徒たちが授業で学んだ結果、「書かれた内容を考えながら黙読する」ことを目指します。

USE Read の最後には、全体を通しての質疑応答などを行います。読んで理解できた英語について、主語と動詞を用いて答えることを目標としています。生徒にとっては最も負荷がかかることの 1 つでしょうが、入試対策としても重要であると考えています。

内容理解の質問にはワークシートを利用しますが、初めからワークシートの活動だと、「読んで解く」という単調な作業だけになるので、その前に 2～3 問程度の質問を口頭で行います。内容を問う場面でも、できるだけ 4 技能を使用することを意識します。

口頭での英問英答が終わったら、英語を読んで質問に答えるというワークシートの活動になります。ワークシートは教科書や生徒用教材から問題を抜き出し、指導書のワークシート集を加工して作成しています。空欄を埋める問題も入れ込んで、取り組みやすくなるようにしています。

4 最後に

題材理解の場面では、状況によって日本語での補足も効果的だと思います。キング牧師の物語の歴史的背景などは、ワークシートに日本語も掲載し、各自が読んで学べるようにすることで、英語で学ぶときの助けとしています。

また、このレッスンでは実際の映像を見せて、実際の英語に触れさせ、同時に題材の理解も促すようにもしています。本物に勝るものなしです。

■ Teacher Talk の例①

指導内容	発 話 例
導入（前時の本文内容の復習）	<p>T : Do you remember the previous story? We learned the speech of Martin Luther King Jr. Now a pop quiz for you. What were his dreams? Come on. (発言を促す)</p> <p>S1 : Black boys and black girls join hands ... (日本語の発言も可とする)</p> <p>T : Now, listen to his speech again. (CD を聞かせる)</p> <p>T : OK. One of his dreams was living in a country where they would not be judged by the color of their skin. Another dream was that black boys and black girls joined hands with white boys and white girls. Now Question No. 2: Did those dreams come true? Yes? Put your hands up. (7～8 割の挙手がありました。)</p> <p>No? Raise your hands. (2～3 割の挙手がありました。)</p> <p>OK, check the answer by yourselves. I’m going to tell you the way. Open your textbook to page 73. What I want you to do is to read the story silently. (What I want you to do is ～. は、未習事項ですが生徒には意味を伝えています。便利な表現なのでよく使用しています。)</p> <p>Your dictionary will help you. Any questions? Ready, go!</p>

■ Teacher Talk の例②

指導内容	発 話 例
本文全体の内容確認	<p>T : I told you the goal of today’s lesson last time. I will ask you three questions about the story of a huge movement 50 years ago. Two key people were Rosa Parks and Dr King. When you find the answer, raise your hands. OK?</p> <p>Ss : OK.</p> <p>T : Your textbook or worksheet will help you. (ワークシートには日本語訳が載っています。難しいと思う生徒はこちらを利用します。)</p> <p>Do you have any questions? OK, good. Now ... Question No. 1. Did Rosa Parks break the law?</p> <p>S2 : Yes. T : Yes, she ... S2 : Yes, she did. (実はこの後、一部の生徒から No, she didn’t. という意見が出て、日本語で少々議論になりました。そんな法律があるはずがないというのです。そこで、裁判で人種隔離法に触れたということで有罪になったことを話しました。ですが、その生徒の No, she didn’t. は内容を考えさせる素晴らしい発言だったので、Nice try! と言って褒めました。)</p> <p>Question No. 2. The black people of the city supported Mrs Parks after she was arrested. They stopped riding buses. How long did the boycott last?</p> <p>S3 : More than 1 year. T : It la ... S3 : It lasted for more than 1 year.</p> <p>T : OK. Next, last question. Who is the wife of the first African-American president of the US?</p> <p>S4 : Michelle Barack.</p> <p>T : Close ... , Barack is the first name of Barack Obama. She is ...</p> <p>S4 : She is Michelle Obama.</p>

授業レポート 東京都立両国高校附属中学校 3年生の授業

約30年間、授業のほとんどを英語でされてきた杉本薫先生。「英語で授業」のポイントは、指示や説明、生徒とのやりとりだけでなく、その場で思いついた冗談やALTとの小声の打ち合わせなど、教師自身が迷い、考えながら英語を使っている姿を見せることであるとおっしゃっていました。

実際の英語のやりとりの様子を、ほんの一部ですがご紹介します。(取材：NEW CROWN 編集部)

この日の授業の流れ(3年生)

- ① あいさつ★
- ② 歌
- ③ Small Talk ★
- ④ ビンゴ(単語のビンゴ)
- ⑤ 教科書★(Book 3 Lesson 4 USE Read 2 時間目)
- ⑥ 題材背景解説★
- ⑦ まとめ★

★印が英語を収録している箇所です。紙幅の都合上、すべては収録していません。



① あいさつ

T: All right. Shall we start? Ready? Good morning, class.
Ss: Good morning, Mr Sugimoto.
T: OK. This is the last English lesson this week.

以下、編集部メモ

② Small Talk (英会話のスキルアップをめざす活動)

T: OK, let's move on to Skill Up Talk. Small Talk. Handouts.
Today we have this, "Signals between speakers and listeners". Speakers and listeners are always changing, but please use these signals together.
All right. Please repeat after me, here we go.
Actually, anyway, now, right, so, well, you know, you see.
OK, and when you are a listener, try to use these:
Hmm, uh-huh, yeah, right, OK, indeed, it sure does, oh, I suppose so, really?, nice going, that's nice, that's too bad, what a shame, that's life, better luck next time, lucky you.
OK, please try to use these things while you are talking. And you can choose the topic. You can choose it from the news, last night and today. Regular pair.
<生徒たちはペアをつくる>
No Japanese. Let's do it all in English. Ready? Go!
<ペアで2分間話す>
T: OK, class. Please check the list.
So, who's the lucky number 20? ... Twenty? (20番の生徒に)

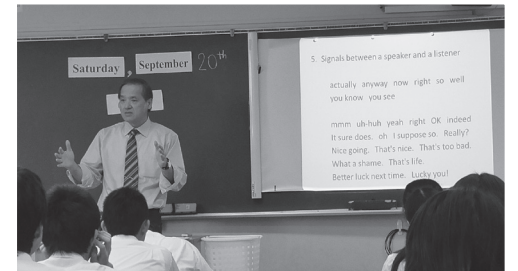
●毎回、テーマを変えて会話練習をしている。この日は「会話の中の合図のことば」を意識した練習。

●前に投影されたことばやワークシートを見ながら、生徒は先生の後に続いて、一語ずつ繰り返す。

●会話の中で前述のことばを使うよう指示。

S1: Yes.
T: Lucky you today. So first of all, what topic did you talk about?
S1: My topic is...
T: Our topic. OUR topic. What topic did you two talk about?
S1: Hiroshima Carps vs DeNA.
T: So what's that?
S1: Baseball.
T: Baseball. Japanese baseball game. And which team won?
S1: DeNA.
T: DeNA. OK. Are you happy?
S1: No.
T: You are a Carp fan.
S1: Yes.
T: How about your partner?
S1: Hanshin Tigers.
T: Tigers fan?
S1: Um, yes.
T: OK. So Carps and DeNA, no problem. So you talked about the baseball game. How about this? Did you use these? (リストを指して)
S1: Uh, yes.
T: What did you use today?
S2: I used 'OK' and 'so'.
T: That's it?
S2: Yes.
T: 'OK' and 'so' are very simple and easy. Try to use something more. 'Indeed', 'it sure does', it's almost the same. Try to use the different English. That will improve your English. If you only know 'OK', maybe you will only say OK, OK, OK. Try to use something else. I think you can do it.
All right. Thank you. So you're twenty? Thirty! Number 30? Absent!
Oh, lucky you. Lucky her. ... Forty! No forty? Ten!
S2: Yes.
T: So what was your topic?
S2: It was about Scotland.
T: Thank you. That was a big topic yesterday. So what do you think about it?
S2: I think that's ...
T: Was it a good choice? Did you feel that?
S2: Yes.
T: How about your partner? Did she agree?
S2: Yes.
T: All right. So that was very close? I think 55 and 45. Very close. Uh ... But they decided ... decided. Maybe that was a good choice right now. But I don't know in the future what happens. The UK has a long history and something about Scotland, not only Scotland, but Wales, Ireland and Northern Ireland, so a lot of things can be happening in the future. We do not know. But anyway, one good thing I believe about Scotland yesterday is they decided in peace. They just voted and decided. That was a great thing. They did not fight. No bomb. No gun. That was good. I think. I believe.
Anyway. Small talk. Let's try to use all these things.

●日付が20日だったので、出席番号が20番の生徒から。その後、30番、40番、10番...と続く。



●他のことばもいろいろ使ってみようアドバイス。

●この授業の前日に、スコットランド独立の是非を問う住民投票が行われた。

⑤教科書 (NEW CROWN Book 3 Lesson 4 USE Read “The Story of Sadako”)

※前日の授業では本文全体を読みました。本時は前回読んだ本文の内容理解のチェックです。

<p>T: Well, let's review Hiroshima and Nagasaki, and the story of the lesson. OK, yesterday we read this story. I think you understand it. But first, let's practice it again. All right. Uh ... let's read it together. If you can look up at the screen, let's look. You can read it. And if you can't, you can look at your books and read it, please. Listen and repeat it. Here we go.</p> <p><音声に続いて、内容を確認しながら1文ずつリピート></p> <p>T: Do you have any questions? I think you can understand it. We're going to check this. The questions and the answers. No. 1, what happened on August 6, 1945? Does anyone know, this August 6, 1945? What happened?</p> <p>S3: An atomic bomb was dropped over Hiroshima.</p> <p>T: An atomic bomb was dropped over Hiroshima. Perfect! No. 2, what subject did Sadako like?</p> <p>S4: PE.</p> <p>T: OK, PE. Very simple. Remember, make a sentence.</p> <p>S4: She likes PE.</p> <p>T: She likes PE is OK, but she's dead now. So she liked PE. OK, No. 3, when Sadako became sick, what did a doctor say to her parents?</p> <p>S5: It will be difficult for her to live more than one year.</p> <p>T: Right. Check the question again. "What did a doctor say?" It's not 'the doctor'. なぜでしょう。(間を置いて) I think that means the doctor was not the only one. There were some doctors, and one of the doctors said that. And? No. 4, how did Sadako feel when she received some paper cranes, the origami cranes?</p> <p>S6: If I can make a thousand cranes, I will get well and run again.</p> <p>T: Yes. But before that, when she received the cranes, she felt ...</p> <p>S6: Hopeful.</p> <p>T: She felt hopeful. And then ... the last one, after Sadako died, what did her friends decide to do?</p> <p>S7: They decided to build a statue of her.</p> <p>T: That's it. The statue of Sadako, the statue of her. OK. So ... maybe it's not so difficult. All right. Now, I wanted you to read. I'll give you one or two minutes, please try to read again. OK. I want you to read it aloud one more time, from start to the end. Your speed is OK. Here we go.</p> <p><本文音読></p> <p>When you've finished it, books down, papers down, and look up please.</p>	<p>●スクリーンに、デジタルテキストの本文画面が映し出されている。</p> <p>●文で答えるように、ということを生徒に意識させている。</p>
---	---

⑥題材背景解説

<p><映像視聴後、題材に関係のある写真を見ながら></p> <p>T: Well, now, I think you understand what happened. I'm going to add a bit more information about this, please listen to this. Here, first let's review what happened on August 6, 1945. The bomb, yes. And I'll show you one more picture here. (航空写真を見せて) This is where Sadako lived, and this is 爆心地. Do you remember the English word for 爆心地? I think you've heard of this before. They call it Ground Zero. Anyway, it happened when she was only 2 years old. And in 1954, the sport day. At first, they had a bad mistake and second time I think it's only in autumn, this sport day they won. That was the happiest day of her life. Then she went to a hospital. These are the cranes she folded at the hospital. She died in 1955. These are newspapers from all over the world. Can you read this? Is this English? No, I think it's Russian. She's here, and this is origami. She became very famous. And the movement of making the statue had started. And 1958, 原爆の子の像. She became a symbol of peace and the tragedy of the atomic bomb. But this is one of my message for you, keep your eyes wide open. Stories never end. I think there are many statues of Sadako around the world, and this one is in America. It's in Seattle. A crane is here. 1990 was the 45th anniversary for the Hiroshima Bombing Day. Newspapers are here, 1990 and 2004. The Sadako statue in Seattle vandalized — vandalized is broken. Can you see this? Here. Her crane was cut off. Something happened. And here are introduction of the story of her, the introduction about her life, and uh that moment there was an argue, discussion ...</p>	<p>●佐々木禎子さんや原爆に関連する話を、映像や写真を見せながら説明。</p> <p>●「原爆の子の像」のその後の話など。</p>
--	--

⑦まとめ

<p>T: I want you to start to think about your 平和宣言. Your opinion. This is your homework today. Here. Please read it. So time's up. Goodbye, class. Ss: Goodbye, Mr Sugimoto.</p>	<p>●「平和宣言」を考えるとレッスンのゴールとしているので、生徒には過去の生徒作品を渡している。</p>
--	---



～授業のその後～

杉本先生は、このレッスンの最後に、ピクチャーカードを使ってレッスンの内容を英語で再現させ、さらに最後に自分の平和についての考えを「平和宣言」として発表する Oral Presentation を、生徒全員にさせたそうです。

生徒のやる気を引き出そう ～ほめることば～

ほめることばはたくさんありますね。場面に合わせていろいろと使ってみてはいかがでしょうか。

いいね！素晴らしい！

Very good! Wonderful!

Awesome! Beautiful!

Terrific! Fantastic!

Amazing! Great!

That's cool!

そのとおり！

You got it!

完璧！

Perfect!

よくやった！

Good job! You did it!

Well done!

信じられない！

Incredible!

Unbelievable!

私もそう思うよ。

I agree with you [your idea].

いい考え（答え）だね。

I like your idea [answer].

中学校 英語で授業 ここがポイント

2015 年 1 月 10 日発行

発行所：株式会社三省堂

編集・発行人：北口克彦

〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14 電話 03-3230-9411（編集）・9412（営業）

ウェブサイト <http://www.sanseido.co.jp/>

●大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3 電話 06-6341-2177

●名古屋支社 〒460-0008 名古屋市中区栄 3-25-43 瑞穂ビル 4F 電話 052-252-9211・9212

●九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 電話 092-531-1531・1532

●札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 3F 電話 011-616-8722